

こわ～い根面のむし歯にご用心！

えっ、歯の根元にむし歯が?!

ここ近年、50代以上のシニア世代の方のお口の歯の土台＝歯の根がむし歯になり、歯に倒壊の危機が見られるようになってきています。歯周病や加齢などにより歯茎が下がって露出した歯の根にできる虫歯を根面う蝕（根面のむし歯）と言います。

歯の根にできるむし歯は、せっかく残せていた歯を失いかねない怖い病気です。しかも、歯の噛むところにあるむし歯と比べて自覚症状がほとんどなく、患者さんが気づかないうちに進行しやすい上、むし歯ができる場所が場所だけに治療もしづらく、歯の噛むところにあるむし歯と比べて非常に厄介です。今回はこの新たなむし歯について詳しくご説明します。

根面のむし歯

- 歯ぐきが下がって、露出した歯の根にできるむし歯のことです。専門用語では「根面う蝕」といいます（「う蝕」はむし歯の意）。
- くちびるや頬側だけでなく、歯と歯のあいだにも生じます。
- 歯周病や加齢などにより歯ぐきが下がり始めるシニア世代に多いですが、若い人でも、歯周病で歯ぐきが下がれば根面のむし歯になります。



むし歯菌が出す酸により歯の根が溶けていきます。

歯ぐきが下がると…



下がった歯ぐきから歯の根が露出します。

進行すると…



むし歯が進行すると歯が折れてしまうことも！

露出した歯の根にむし歯ができます。歯の噛むところはむし歯になっていないケースも多いです。

根面のむし歯が厄介な6つの理由

1 早期の発見が非常に難しい

Quiz どこがむし歯になっているでしょう？

むし歯になりはじめた根面



むし歯になっていない根面



Answer



黒い部分がむし歯です。サホライド(→p.22参照)を塗ったところ、黒く変色してわかりやすくなりました。

- 根面のむし歯は、最初期の発見が非常に困難です。
- 根面の象牙質はもともと黄みがかっていて、できはじめのむし歯は色がうっすら変化する程度。専門家の目でも判別に苦労します。



2 自覚症状がほとんどない

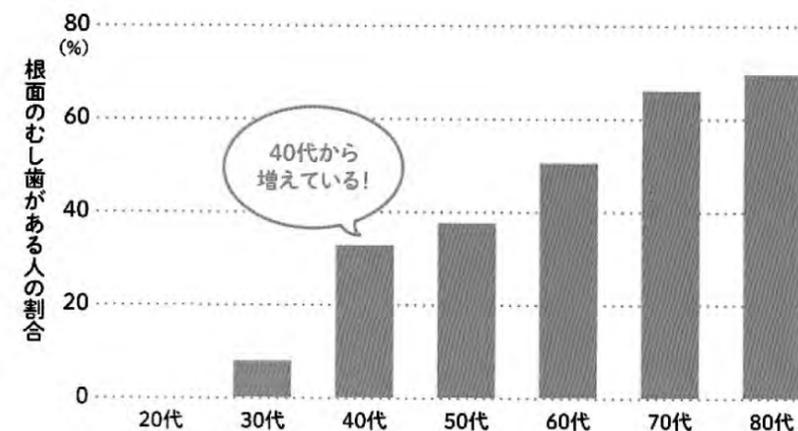
●根面のむし歯には、「しみる」「痛い」といった自覚症状はほとんどありません。くちびるで隠れる位置にできるので鏡でも見にくく、むし歯になっていることに気づかないまま進行しているケースも多いです。

●根面のむし歯は数年かけて徐々に進むこともあれば、短期間で急速に進むこともあります。どちらの場合も痛みは出にくいです。

Pick up

シニアの6割以上が根面のむし歯に!

サンスター財団附属千里歯科診療所に通院している20代～80代の男女298名を調査したところ、根面のむし歯になっていた人は全体の49.3%に上りました。年代別で見ると、30代の7.7%から年齢が高くなるにつれて増加し、80代が70.0%でもっとも高い数値でした。



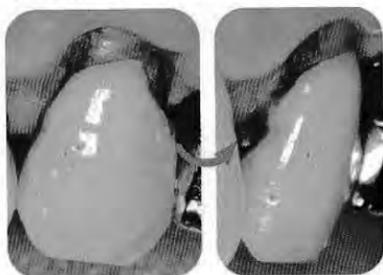
(サンスター財団附属千里歯科診療所の調査より)

3 セルフケアが難しい

●根面は歯ブラシが届きにくい場所で、みがき残しが多くなりがちです。当てているつもりでも当たっていない、ということもよくあります。

歯のまわりを囲むように広がっていく

根面のむし歯は、歯のまわりをぐるりと囲むように(環状に)進行することもあります。これもむし歯部分の除去を難しくしています。



同じ歯を角度を変えて見たところ(サホライドによりむし歯部分を黒く変色させています)。

歯ぐきのなかに広がっていることも

根面にできたむし歯は、歯ぐきのなかの象牙質に広がっていくことがあります。器具が届かないため、むし歯部分を除去できませんし、詰め物をするのも困難です。



4 象牙質は酸に弱い

●歯の根面の象牙質は、歯の噛むところを覆うエナメル質より酸に弱く溶けやすいため、みがき残されたプラークの影響も受けやすいです。

5 治療が難しい

●噛むところのむし歯は、進行した場合、細菌に侵された病変部を除去して、進行を止めてから詰め物や被せ物を入れます。ですが根面のむし歯は、そうした対応が難しいのです。

うかつに削ると破折のキケンあり

歯の根に深く広くむし歯ができていく場合、むし歯部分を残らず除去しようとすると、歯が折れてしまう可能性が高いです。



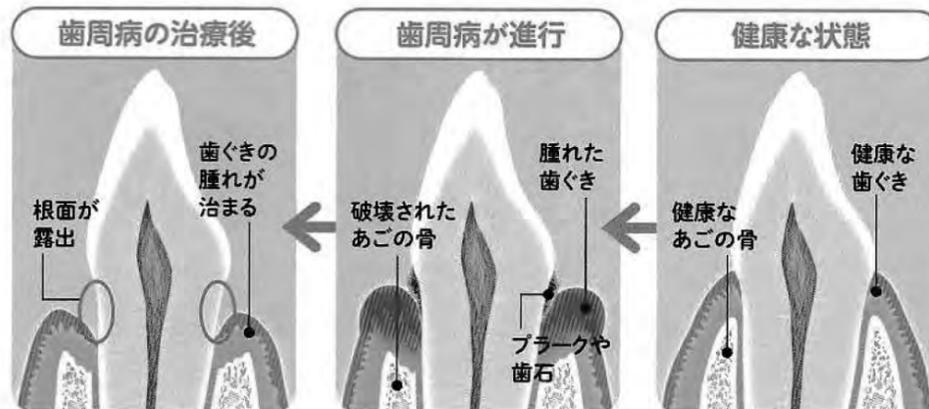
(写真提供: 福岡歯科大学 口腔・歯学部門准教授 松崎英津子 先生)



Pick up.....

歯周病による根面の露出

根面が露出する原因は歯ぐきが下がることですが、そのいちばんの理由は歯周病です。進行すると、炎症によりあごの骨が破壊(吸収)され、骨の上を覆う歯肉も減って



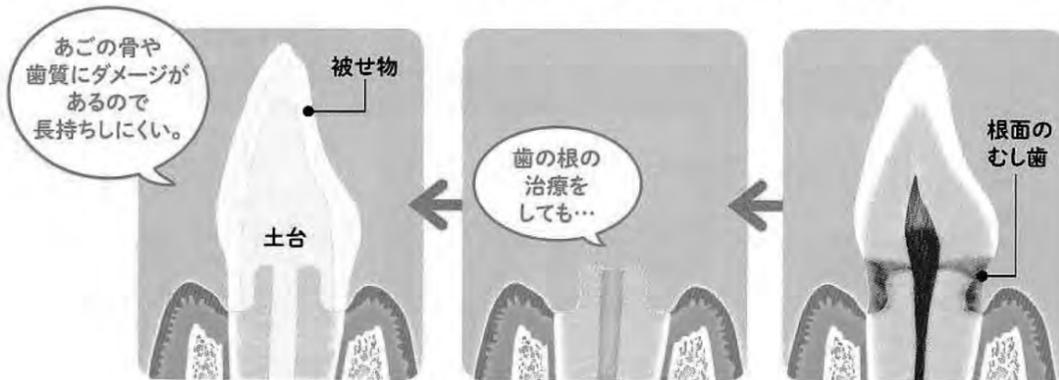
あごの骨が減ったぶん歯ぐきも下がり、根面が露出します。

歯周病が進行し、あごの骨が破壊され、歯ぐきは腫れています。

あごの骨と歯ぐきは健康そのもの。根面も露出していません。

6 治療後も長持ちしにくい

●根面のむし歯が広がっているとき、歯の根の治療をして被せ物を入れることがあります。こうした場合、①歯周病によりあごの骨が減っている、②そのため歯ぐきより上に出ている部分が増えてバランスが悪くなっている、③根の歯質が減っている、④歯の神経が取り除かれているなどの理由で、どうしても予後が悪くなります。



土台をつくり被せ物を入れます。

むし歯部分を除去するとき歯の根の治療をしても... 歯の根の治療をしても... 進行した根面のむし歯。

進行した根面のむし歯。

根面のむし歯がまず厄介なのは早期の発見が非常に難しいことです。根面の象牙質はもともと黄みがかったり、色がうっすら変化する程度。専門家の目でも最初期の発見は非常に困難です。

根面のむし歯は「しみる」「痛い」といった自覚症状はほとんどありません。唇で隠れる位置にできるので人に指摘されることも少なく、大半の人がむし歯になっていることに気づいていないようです。

根面は歯ブラシが届きにくくプラークが残りがちな場所で、さらに酸に弱くセルフケアもしづらいです。さらに厄介なことに根面のむし歯は「こうすればいい」という治療法はまだ確立されていません。

根面のむし歯の治療を受けたあとは以前よりずっと弱くなっていますので、ぜひ大事にケアをしていただければと思います。

根面のむし歯の進行性と予防には歯科の定期受診が欠かせません。むし歯になり始めの状態なら、定期的に経過観察を受けて頂きながら、むし歯の原因の究明と食生活や歯磨きの改善、フッ素塗布などを通じて進行抑制に努めます。根面が露出する原因は歯茎が下がることで、その一番の理由は歯周病です。歯周病の予防のためにも定期受診を欠かさないようにしましょう。

磨きすぎに注意!

患者様のお口の中を診ていると、「歯磨きが不足している」患者様がいる一方で「磨きすぎて歯や歯ぐきが傷ついている」患者様が多い事に気が付きます。

歯磨き不足が歯周病を引き起こすことは事実なので歯磨きはしなければならないのですが、歯磨きし過ぎて歯がすり減ったり、歯ぐきが傷ついたりするのも大問題です。

人生100年時代、歯は長持ちさせなければならないのですり減ったり傷つけて歯の寿命を削ってはなりません。ちょうど良い加減が必要なのです。

「ちょうど良い加減」は定期健診の時に歯科衛生士と相談してください。

・ 医院からのお知らせ ・

11月はカレンダー通りの診察です。

11月3日 休診 文化の日
(憲法公布の日、明治天皇誕生日)

11月23日 休診 勤労感謝の日
(新嘗祭)

発行元 夢デンタルクリニック

札幌市西区西野3条7丁目5-15

☎ 011-667-4618

〈診療時間〉

月・火・木 9:30-18:30

水・金 9:30-17:00 休診日:土・日・祝